



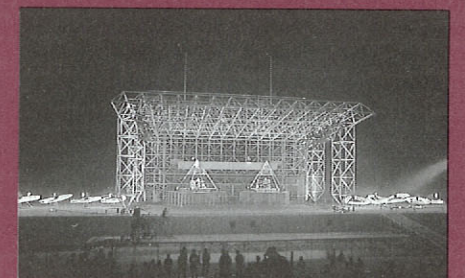
薪の炎がより神秘的な雰囲気を出す

## 大自然に息吹く天・地・創・造の文化 —「第4回県民文化祭 阿蘇」

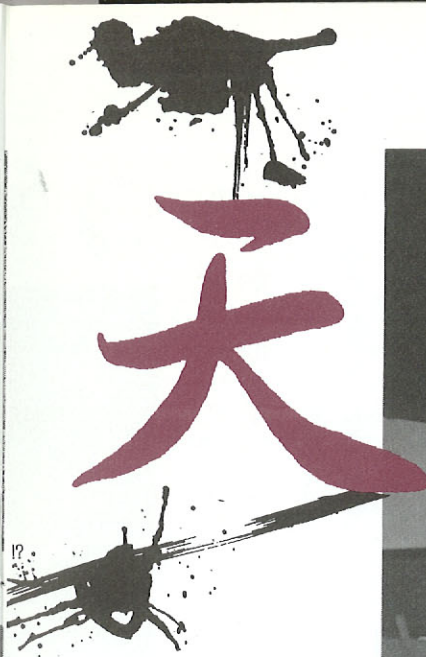
今年で第4回目を迎える県民文化祭が10月19日から9日間、阿蘇12町村の各会場で開催されました。この文化祭は、県民の文化活動への積極的な参加と文化の相互交流を目的とし、各地域持ち回りです。八代市の第1回開催から、玉名市、本渡・牛深両市と続き、郡単位での開催は阿

蘇が初めて。「阿蘇ルネサンス天地創造」をテーマに音楽会や薪能、シンポジウム、野外造形展など24の多彩な行事が華やかに繰り広げられました。今回のママさんレポートでは、第4回県民文化祭阿蘇を訪ね、大自然にはぐくまれた阿蘇の文化や歴史、暮らしの息吹を伝えます。

天～山をゆるがし、天までとどけ  
地～大地に祈り、暮らしに感謝する  
創～未来を創る、夢を語ろう～  
造～知られざる阿蘇の美を造ろう



音と光りのパフォーマンスが文化祭のフィナーレを飾る



美川憲一のトークライブに観客も熱狂

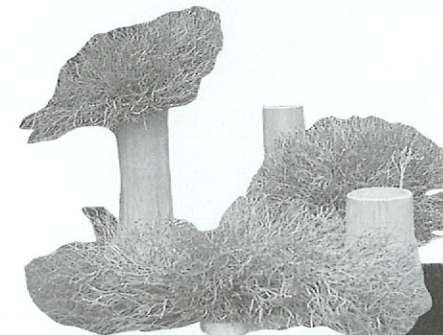
# 地

簡単な能の説明の後、いよいよ開始。まずは、宮地小学校の子どもたちによる狂言や小舞が披露されました。一人ひとりが何ともかわいらしくてほんとうに一生懸命。子どもたちの無邪気な表情には、自分たちが伝統をしっかりと守り伝えていくのだという誇らしげな輝きが溢れていました。その後、金春流の人たちによる「高砂」という本格的な能を堪能。子どもたちも舞台のそでプロの舞に真剣に見入っているようでした。

「宮地小学校の若き伝統芸能継承の担い手たちよ。この県民文化祭をステッブに県民に、いえ国民にあの神聖な感動を再び味わわせてノそして素晴らしい伝統をいつまでも大切に育んでノ」秋の一日、私たちの心は爽やかな感動でいっぱいになりました。

## 「既成の枠をこえた文化が大集合」 創・BASARA

阿蘇いこの村では、さわやかな秋空のもと、文化イベント「BASARA」が開催されました。既成の概念を



小国杉の美しい柱目を生かしたオブジェが並ぶ—造・野外造形展より



様々な郷土芸能が披露されたBASARA会場

# 造



力が勢揃い—造・大阿蘇絵画展より

打ち破るといふ意のタイトルは、室町時代の流行語「婆娑羅」をアレンジしたものだ。そのことは通り、ここでは音楽、舞踊、各種の展示品など枠をこえた様々な文化が共演しました。ステージでは、詩吟や阿蘇各地に伝わる太鼓、昔懐かしい音色の大正琴の演奏など次々と披露されていました。また、広場では熊本県民俗芸能大会と銘打ち、県内各地に残るやっこ踊りや獅子舞、虎舞などが行われ、赤・黄・青の色とりどりの衣装が阿蘇の緑をバックに乱舞し、えもいわれぬ美しさでした。ここでは大人に混じって小学

生くらしい子どもたちが見事な演技を見せてくれるなど、民俗芸能の将来に頼もしさを感じました。そのほか、阿蘇の小学生が作ったユーモラスな表情のかかしや、華道の各流派が合同で作った巨大な作品などの展示物が、私たちの目を楽しませてくれました。千人以上もの出演者が入り乱れて開催された、まさにBASARAなこのイベント。雄大な阿蘇にふさわしい伝統文化の集大成で、熊本文化の元氣さというらしい気持ちを抱きながら会場を後にしました。



「文化の響きよ、熱い想いよ、天まで届け」  
天・サウンドイン阿蘇  
河津 弘美さん  
(阿蘇郡阿蘇町)

高鳴る鼓動を抑えつつ、いざ会場へ。足を一歩踏み入ると、色とりどりの眩しいスポットライトがステージを夢の世界のごとく映し出していました。光と音がありなす不思議な空間です。ゲストの美川憲一の愉快なおしゃべりを楽しみ、阿蘇のサウンドネットワークはじめ八つのアマチュアバンドの奏でる音楽に、愛や夢を感じました。スローなバラードは優しい気持ちを、

夕闇せまる阿蘇神社の楼門をくぐる  
と、境内には杉の木立を上手に生かして作られた能舞台。私にとって初めての能鑑賞に胸が高鳴ります。薪が火入れを待つばかりに用意され、凜とした神聖な空気が漂っていました。

## 「伝統を守り育む誇りに輝く子どもたち」 地・阿蘇神社 薪能

林田 三恵さん  
(上益城郡御船町)

